# 津波・地震防災訓練

愛知県では、東日本大震災による津波被害を受け、平成23年度から南海トラフ巨大地震などの大規模地震及びそれに伴う大津波を想定し県内市町村との共催により、津波避難を中心とした実践的・参加型の防災訓練を実施しています。

平成25年度は11月17日(日)に美浜町と共同で、日本福祉大学他美浜町内の小学校を訓練会場とし津波・地震防災訓練を実施しました。

この訓練では、津波に対し避難が重要であるという意識と、平素から予想される危険を回避するため、建物の耐震化や家具等の転倒防止対策への意識を高めるため、「地域防災力の向上～率先避難者になろう～」をテーマに掲げました。訓練は、美浜町内の全小中学校や日本福祉大学をはじめとする町内全域においての避難訓練や、同大学学生等によるボランティアセンター設置訓練、防災関係機関が連携した救出救助訓練等を実施し、44機関、約5,500人の防災関係機関等や住民が参加しました。

このような訓練を積み重ねることにより、避難場所の把握、避難経路の確認及び危険箇所の把握など、様々な事項を確認することができ、実際の災害が発生した際には、訓練を活かした迅速かつ的確な避難行動により、津波から身を守ることが期待できます。

避難場所に向け避難を行う小学生

倒壊家屋からの救出救助を行う知多南部消防組合

# 県民総ぐるみ防災訓練

愛知県では、毎年8月30日から9月5日の防災週間を中心に、愛知県防災会議の主唱により、南海トラフ巨大地震などの大規模地震を想定し、訓練参加機関などとの相互協力体制の確立、民間防災体制の強化及び県民の防災意識の高揚を図るため、総合的かつ実践的な防災訓練を実施しています。

平成25年度は9月1日(日)に稲沢市と共同で、サリオパーク祖父江(稲沢市祖父江町)を訓練会場に総合防災訓練を実施しました。

訓練には77機関、約2,800人の防災関係機関や一般市民などが参加し、“自助、共助そして公助へ～つながる地域の防災力～”をテーマに、地域住民と防災関係機関が連携した救出救助訓練を始め、水難救助訓練や応急救護所の設置・運営訓練、支援物資の受入・搬送訓練などを行いました。

また、正午には時報に合わせて、県内全域では初めての試みとなる「あいちシェイクアウト訓練」を実施し、地震が起きた瞬間に自分の身を守るための安全行動である「①姿勢を低く、②頭を守り、③じっとする」を1分間行っていただきました。

なお、あいちシェイクアウト訓練は、来年度も9月1日(月)の正午の時報を合図に県内全域で一斉に行う予定ですので、多くの方の参加表明をお待ちしております。

愛知県・稲沢市総合防災訓練

あいちシェイクアウト訓練

# 防災・減災カレッジ開講!

災害被害の軽減に向けた県民運動を推進しているあいち防災協働社会推進協議会では、地域の産学官民が連携、協働して防災人材を育成する「防災・減災カレッジ」を昨年度スタートさせ、2回目となる今年度は平成25年7月27日～8月24日までの間、名古屋大学を主会場として開講し、昨年度の4割増のおよそ1,400人の方が受講されました。

防災基礎研修の様子(名古屋大学)

今年度は、「防災基礎研修」を名古屋大学と県の西三河県民事務所の2か所で開催したのを皮切りに、企業の防災を担う方向けの「企業防災コース」、地域防災の担い手を目指したい方向けの「地域防災コース」などの5つのコース(各コース3日間)と「啓発指導講座」、「救命救急講座」など4つの選択講座(各講座半日間～1日間)を実施しました。

各コースの内容も、座学だけではなく、グループワークも取り入れるなど、より充実を図っています。また、今年度から複数のコースを受講することで防災士の資格取得試験を受けることができるようになり、平成25年10月20日に防災士試験を実施し、48人の方が無事合格されました。

地域防災コースの様子(名古屋大学)

## 防災・減災カレッジ協賛金のお願い

防災・減災カレッジは、参加者の受講料と企業や県民の皆様からの協賛金により運営しています。今後、持続的な防災人材育成の仕組みとしてこの事業を定着、発展させていくためには、企業や県民の皆様のご理解とご支援が必要です。地域の安全、安心と将来を担う防災人材育成の重要性、必要性をご理解の上、この事業にご協賛いただきますようお願い申し上げます。

協賛金に関して、詳しくは下記のホームページをご覧いただくか、電話にてお問い合わせください。

◎あいち防災協働社会推進協議会のホームページ

http://www.pref.aichi.jp/0000003405.html

◎愛知県防災局防災危機管理課　☎052(954)6190

# 高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」

愛知県教育委員会と防災局では、名古屋大学と連携し、「高校生防災セミナー」を開催しています。

セミナーには、毎年、県内の15校が参加し、一年目は、夏休みの4日間、名古屋大学において、災害に関する基礎知識や災害ボランティアなどについて学び、そこで学んだことを生かして、学校での防災普及活動を計画・実践しています。

二年目は、一年目の活動成果を踏まえ、活動範囲を学校の所在する地域に広げ、地域住民と連携した防災訓練や避難所運営体験などの活動を行っています。

このセミナーを通して、地域の防災力の向上に貢献できる若い人材が次々と育ち、防災の輪が広がっていくことを期待しています。

今年度参加の蒲郡高校が考案したキャラクター「防災戦隊ゲンサイジャー」

**昨年度からの参加15校**

【名古屋市立】名東　【私立】愛工大名電、名古屋
【県立】緑丘商業、惟信、春日井東、犬山南、一宮南、杏和、武豊、豊田南、幸田、西尾、豊橋西、豊川工業

**今年度からの参加15校**

【名古屋市立】山田　【私立】中京大学付属中京、誠信
【県立】旭丘、松蔭、瀬戸窯業、小牧南、木曽川、佐織工業、横須賀、豊野、岡崎、知立東、豊橋工業、蒲郡

# 高校生の活動紹介～愛知県立東海商業高校～

―東海商業高校の取組について、宮岡正吏先生にお聞きしました。

本校の所在地である東海市は、岩手県釜石市と姉妹都市となっています。東日本大震災で被災した釜石市に、本校も何かできることがあればということで、釜石市へのボランティアや、釜石商工高等学校との交流、釜石の物産販売などの活動を通して被災地の復興を支援しています。ボランティア活動ではボランティア部が中心となりマフラーを編んで現地に送りました。また、1年生279名がフェルト生地で「お地蔵さん」をつくり、現地のお寺に奉納していただきました。物産販売活動では、義援金を釜石商工高等学校に毎年持参して届けています。震災からまもなく3年が経とうとしていますが、記憶を風化させないためにも継続して活動する予定です。

また、災害時には、炊き出しや配給の場面において高校生が避難所で果たす役割が非常に大きいことを踏まえ、日本赤十字、陸上自衛隊の活動に参加させていただくなど、普段から防災の取組を行っています。本校生徒が卒業後、地域防災の要になることを期待しています。そのためには、一人でも多くの生徒の防災意識を高める防災教育の推進が強く求められます。今後も積極的に防災関係機関と連携していきたいと考えています。

あいち防災フェスタ出展の様子